



# 人事問題で醜聞が広がる?



## 汚職告発・浄化はどこまで

汚職疑惑で告発された大臣は温存したのに、P

国家統合省干事対策事務局(Dnocs)のエリアス・フェルナンデス・ネット局長の辞任が決まり、ジウマ政権に対する民主運動党(PMDB)内の不満が高まっていると27日付伯字紙が報じた。26日付G1サイトによれば、Dnocsの役員更迭はここ2カ月で3人目だ。

## 干害対策工事局長辞任で

# PMDB内に報復機運

東西南北

コリンチヤンス8回、サンパウロ3回など計25回。リオはフルミネンセ5回など計8回、ミナスジエウマ大統領の意向に従う形でDnocsのネット氏が26日に辞意を表明し、同党内に報復機運が高まつたとまで表現したのはフオーリヤ紙だ。Dnocsの辞任は自分の中親であるPMDB下院議員であるエンリケ・エウアルド・アウヴェスが、国家統合省といえども行つた発言が、却つてその時期を早めたと스타트紙はいう。

同下議にしてみれば、フルナルド・ピメントラ、ウルナード・ペゼーラ、国家統合相、パウロ・ベニエイリーニョ

ジウマ大統領が「テー

ト立退きを「野蛮な行

為」と切り捨てる。27

日付伯字紙が報じた。

ジウマ大統領は26

日、ポルト・アレグレ市レ

イリーニョで行われた強

制立退きを「野蛮な行

為」と切り捨てる。27

日付伯字紙が報じた。

ジウマ大統領は26

日、ポルト・アレグレ市レ

イリーニョで行われた強

人物探訪  
平成16年3月28日号

# メガジン 国際派日本人養成講座

## 岸信介

千萬人といえども吾往かん

日本を真の独立国とするための構想に邁進した信念の政治家。

### 1. 明快な国家ビジョン

二大政党政治、対等な日米同盟関係、そして憲法改正、こういう明快な国家ビジョンを描いて、その実現に邁進した政治家がいた。岸信介である。まさに現在の憲法は占領時代に米国が残していくものである。独立国なら、国民は自らの手で憲法を作らねばならない。そのためには多数の小政党が林立して政権が生まれるためには、わが国が占領状態を脱して、眞の独立国となるためには、米国との対等で健全な同盟関係を築かなくてはならない。さらに現在の憲法は占領時代に米国が残していくものである。独立国なら、国民は自らの手で憲法を作らねばならない。そのためには多数の小政党が林立して政権が生まれるためには、わが国が占領状態を脱して、眞の独立国となるためには、米国との対等で健全な同盟関係を築かなくてはならない。

### 2. 死を覚悟したこと

最初の「東条さんと喧嘩したとき」とは、昭和18年暮れ、岸が東条英機内閣の國務相兼事務省次官を務めていた時のことである。岸はサイパンでデモに取り組まれた時だ。

社会党統一はひと月早く実現し、ここに自民党と社会党が対峙する「55年体制」が実現した。この体制は平成5年の細川内閣誕生まで38年余も続いた。社会党統一の一年後に三輪が世を去ると、岸は

死を覚悟したこと

が三度ある。

岸は

死を覚悟したこと









